

「利根運河歴史年表（1）」 （～明治20年まで）

西 暦	和 暦	出 来 事
1594	文禄 3年	伊奈家三代にわたる関東一帯の治水工事が始まる 承応3年(1654年)終了
1603	慶長 8年	徳川家康江戸に入り幕府を開く
1629	寛永 6年	野田三ツ堀対岸開削による鬼怒川の小貝川からの分流化完成
1635	寛永 12年	江戸川の開削始まる(関宿～野田・金杉橋間 18Km) 寛永 18年(1641年)完成
1868	明治元年	江戸幕府が倒れ明治時代となる
1875	明治 8年	2月 陸運元会社、社名を内国通運会社と改める
1877	明治 10年	2月24日 内国通運会社の新造汽船落成、第一号通運丸と命名
1879	明治 12年	3月29日 御雇オランダ人工師ファン・ドールの後任として、ムルデル来日 (土木一等工師として初めの月給は貿易銀 475 円)
1880	明治 13年	3月8日 人見寧、茨城県県令となる
1881	明治 14年	広瀬誠一郎、秋場庸が茨城県県令人見寧に利根運河開削を建議する
1882	明治 15年	1月 銚子汽船会社開業する。 2月 広瀬誠一郎、北相馬郡長となる。 内務省は御雇オランダ人工師デレイケに利根運河の実地調査を命ずる。
1883	明治 16年	2月8日 内務卿山田顕義、石井土木局長や御雇オランダ人工師デレイケ等を随えて現場を視察。
1884	明治 17年	5月 茨城県県令人見寧、内務・大蔵・農商務三卿に建白書を提出
1885	明治 18年	2月25日 ムルデル、「江戸利根両川間三ヶ尾運河計画書」を内務省土木局長に提出。

		<p>6月17日 千葉・茨城両県が運河開削調査のための「江戸利根運河協議書」に調印。</p> <p>7月8日 人見寧、加波山事件の処理で責任を問われ、茨城県令を免官となる 後任は島惟精(しまこれただ)</p>
1886	明治19年	<p>4月 島茨城県令、運河開削委員を設ける</p> <p>5月11日 島惟精死去。(後任は安田定則)</p> <p>6月12日 ムルデル一時帰国</p> <p>7月9日 茨城・千葉県令と東京府知事、内務大臣山縣有朋に運河開削の必要性を上申する。</p> <p>8月10日 広瀬誠一郎、北相馬郡長を辞任</p>
1887	明治20年	<p>4月11日 利根運河会社創立協議会を木挽町商工会で開催、創立委員を選挙</p> <p>4月12日 仮創立事務所を置き、株式申込受付開始</p> <p>4月13日 利根運河会社8000株、全株受理により締切る</p> <p>4月30日 創立事務所を浜町に移す</p> <p>5月9日 「利根江戸両川間運河開削願」「利根運河特許請願条件」を船越千葉県知事に提出。</p> <p>5月9日 ムルデル再来日</p> <p>7月9日 西村土木局長、運河線路実地検分</p> <p>7月27日 ムルデル、運河線路を検分</p> <p>8月16日 内務大臣山縣有朋、運河線路検分</p> <p>11月2日 ムルデル、実測図をもとに「三ヶ尾運河計画報告書」作成</p> <p>11月10日 千葉県知事、「利根江戸両川間運河開削免許命令書」を交付</p> <p>11月20日 株主総会を開き、役員を選挙(社長人見寧、理事広源誠一郎他)</p> <p>12月1日 利根運河会社定款を認可</p> <p>12月13日 利根運河会社事務所を日本橋区浜町に設置</p>

「利根運河歴史年表（2）」

（明治21年～明治37年まで）

西 暦	和 暦	出 来 事
1888	明治21年	<p>3月17日 利根運河会社本社が建築落成を千葉県に上申(新川村深井新田290番地)</p> <p>3月29日 利根運河会社支社設立を東京府に届け出(日本橋区浜町2丁目11番地)</p> <p>4月10日 第一区工事請負入札 船戸村染谷安蔵に1,149円で落札</p> <p>4月25日 第二区工事請負入札 夷隅郡釈迦谷村大野丈助に98,869円で落札</p> <p>4月26日 第三区工事請負入札 印旛郡木下駅吉岡七郎に78,904円で落札</p> <p>5月6日 利根運河工事起工を千葉県に届け出</p> <p>7月14日 利根運河開削起工式を本社にて挙行(来賓船越千葉県知事、ムルデル工師等)</p>
1889	明治22年	<p>1月15日 ムルデルに勲四等が贈られる</p> <p>1月下旬 今上落の悪水路用伏越樋工事着手(明治23年1月完了)</p> <p>5月12日 利根運河工事に囚人を使う件に付き千葉県より回答</p> <p>5月13日 人見寧が病気のため社長を辞任</p> <p>5月23日 志摩万次郎が2代目社長に就任</p> <p>7月1日 東海道本線新橋神戸間全通</p> <p>7月(又は8月)第三区工事請負人を富沢久次郎外11名に変更する</p> <p>11月10日 第二区工事及び付帯工事を日本土木会社に請け負わず</p> <p>11月28日 広瀬誠一郎、利根運河会社理事を辞任</p>
1890	明治23年	<p>1月6日 利根運河会社は千葉県に運河開通を出願</p> <p>2月25日 ムルデル立会いの元、江戸川、利根川間の水を通水</p> <p>3月15日 千葉県は利根運河通航規則を制定、20日よりの通</p>

		<p>船を利根運河会社に許可</p> <p>3月18日 広瀬誠一郎、東京にて病没(享年54才)</p> <p>5月11日 ムルデル帰国</p> <p>5月27日 千葉県は利根運河工事竣工を許可</p> <p>6月18日 利根運河開削竣功式を挙</p> <p>9月18日 志摩万次郎、社長を辞任</p> <p>11月6日 色川誠一、社長に就任</p> <p>11月30日 千葉地方裁判所、利根運河会社運河収入金仮差押を日本土木会社に許可</p>
1891	明治24年	<p>1月26日 安田銀行が利根運河会社本社の財産差押えを行う</p> <p>3月15日 利根運河会社は運河開業1周年祭を挙</p> <p>11月1日 千葉県は運河の汽船通行を許可する</p> <p>12月9日 利根運河会社、日本土木会社と工事費支払で示談成立</p> <p>12月25日 安田銀行も借入金について示談成立</p>
1892	明治25年	<p>4月14日 内国通運会社の汽船を使用し利根運河往復の試運転を行う</p>
1893	明治26年	<p>4月1日 汽船の通航を開始する(銚子汽船等、銚子-東京間6時間短縮)</p> <p>12月26日 第三代利根運河会社社長に稲葉秀作が就任</p>
1894	明治27年	<p>7月 日清戦争始まる。又、総武線が開通する</p>
1895	明治28年	<p>1月 内国通運会社と銚子汽船会社が銚子-東京間の直航便(相互2回定期発船)開始</p> <p>5月13日 第四代利根運河会社社長に中沢文治が就任</p>
1896	明治29年	<p>7月22日、9月9日 大洪水のため運河閉鎖、水流が利根川向きから江戸川向きに転じる</p> <p>9月30日 田中村大青田総代他が洪水の損害賠償を利根運河会社に請求</p> <p>12月25日 常磐線開通(田端-土浦間)</p>
1897	明治30年	<p>1月19日 成田鉄道(現成田線)が佐倉-成田間で開通</p> <p>6月1日 総武鉄道(現総武本線)銚子-本所間開通</p>
1898	明治31年	<p>8月1日 日本鉄道会社海岸線(現常磐線)田端-岩沼間全通</p>

		9月4日～10月4日 銚子汽船会社は利根川、江戸川の洪水で汽船通航を停止
1899	明治32年	この年利根運河低水工事中止
1900	明治33年	この年利根運河改修工事起工
1901	明治34年	3月6日 ムルデル、オランダのナイメーヘンで死去(享年52歳) 4月1日 成田鉄道(現成田線)我孫子ー成田間全通
1903	明治36年	7月5日 水海道へ通運丸の新航路を開始
1904	明治37年	2月10日 日露戦争はじまる

「利根運河歴史年表（3）」

（明治42年～昭和18年まで）

西 暦	和 暦	出 来 事
1908	明治42年	3月3日 利根運河会社は創業20周年を記念し利根運河碑の建設を千葉県に申請
1910	明治43年	4月21日 軽便鉄道法公布 8月31日 県営軽便鉄道柏野田間、成田多古間敷設が免許される 11月26日 千葉県は軽便鉄道柏野田間線路の運河横断橋梁架設を運河会社に照会 12月2日 軽便鉄道の運河横断橋梁の工事請負入札が行われる
1911	明治44年	1月 利根運河会社は柏野田間軽便鉄道「東深井停車場」の名称を「運河停車場」に変更することを千葉県に請願 5月9日 県営軽便鉄道野田柏間開通 6月13日 県営軽便鉄道野田柏間を野田線と定める 9月 利根運河国有期成同志会設立趣意書が出される
1912	明治43年 大正元年	7月1日 元号が大正に改められる 10月28日 武総鉄道会社が我孫子岩槻間軽便鉄道敷設の免許を得る
1913	大正2年	4月8日 運河法発布(12月1日施行) 4月10日 船橋鉄道会社が船橋豊四季間の軽便鉄道敷設の免許を得る 7月1日 流山軽便鉄道会社が馬橋流山間軽便鉄道敷設の免許を得る 9月 利根運河会社は利根川筋戸根運河河口の付け替えを千葉県に請願 11月1日 常総鉄道(現関東鉄道)取手下館間開通 12月 利根運河会社支配人森田繁男、県会議員に当選 茨城県会議長、利根運河国有の意見書を内務大臣に提出 この年、内国通運会社及び銚子汽船会社は利根川口変更請願を利根運河会社に陳情

1914	大正3年	8月23日 第一次世界大戦に参戦
1916	大正5年	3月12日 流山軽便鉄道開通 10月21日 利根運河会社は利根運河延長開削並びに補助請願書(利根川口を我孫子市字稲地先延長計画)を千葉県に提出
1917	大正6年	3月13日 常総船業同士の会、運河通行料金3割値下げを利根運河会社に陳情 10月14日 利根運河会社社長中沢文治、利根運河会社整理案を提出 12月18日 利根運河会社株主総会にて利根川口延長実施を無期延期とする 中沢文治、社長辞任し第五代社長に森村堯太が 就任 12月 千葉県会議長、利根運河国営の意見書を内務大臣に提出
1919	大正8年	12月17日 内国通運会社、通運丸全てを東京通船会社に売却し利根川筋の営業を廃止する
1922	大正11年	12月 利根運河会社初代社長人見寧死去(享年79歳)
1923	大正12年	2月3日 本多貞二郎、利根運河国有建議案を衆議院に提出(3月20日可決) 7月18日 県営野田線、北総鉄道に払い下げ認可(8月1日、北総鉄道営業開始) 9月1日 関東大震災 12月11日 利根運河会社社長森村堯太死去 12月18日 第六代利根運河会社社長に森村良策が就任 12月27日 北総鉄道会社、柏船橋間の営業開始
1924	大正13年	1月1日 量水標観測をメートル法に改正 1月4日 利根運河会社社長森村良策、名前を森村堯太に改名 11月1日 東京通船会社及び銚子汽船会社、東京銚子航路を河川浅瀬のため汽船を廃して小型石油発動機貨物船にかえる
1926	大正15年 昭和元年	12月14日 利根運河治水請願書が県会に提出される 12月25日 昭和と改元

1927	昭和2年	9月19日 関宿閘門落成のため運河内流水の落差があり内務省に陳情書提出
1928	昭和3年	9月 運河国有期成同志会、諸請願を衆貴両院に提出
1932	昭和7年	4月9日 運河橋開橋式挙行
1933	昭和8年	3月25日 本多貞二郎、利根運河国有化の建議案を第64回帝国議会衆議院に提出
1934	昭和9年	2月28日 総武鉄道(旧北総鉄道、昭和4年改称)、運河柏間に吉野桜5000本の植樹を計画、3月中に3000本植付け
1937	昭和12年	6月25日 大旱魃のため利根運河会社は低水工事促進を内務省に陳情 7月7日 日中戦争はじまる 10月30日 利根運河会社、会社所有水田及び池沼全部を売却決定 12月4日 利根運河会社、所有の畑及び山林全部の売却決定
1938	昭和13年	6月28日 大洪水が発生、運河周辺地域見渡す限りの湖沼と化す
1941	昭和16年	7月22日 利根江戸両川の 大洪水 のため水堰を閉鎖、営業を休止する 7月29日 福田、田中、旭、梅郷、新川の5ヶ村が水害の損害賠償で利根運河会社と交渉
1942	昭和17年	1月25日 利根運河会社臨時株主総会にて運河を内務省に売却することを決議
1943	昭和18年	2月22日 千葉県は元利根運河筋を利根川の派川と認定